

## 令和2年度 附属高等学校 学校経営計画

### 1 附属学校の役割

- 学部・大学院における研究を附属学校で実際の指導に取り入れ、その結果を学部・大学院の教育研究に反映していく実験・実証校としての役割
- 学部・大学院の教育研究に基づいて、教育実習生を指導する教育実習校としての役割
- 一般公立学校と同様に普通教育を行う公教育の役割
- 地域の学校と連携して教育。研究を推し進める役割

### 2 東京学芸大学附属学校教育目標

東京学芸大学附属学校は、在学する幼児・児童・生徒に普通教育を施すとともに、大学と連携して実証的研究や実践的研究に取り組むことにより、

- 協働して課題を解決する力
- 多様性を尊重する力
- 自己を振り返り、自己を表現する力
- 新しい社会を創造する力

の四つの力を持った次世代の子どもを育成する教育を推進する。

### 3 東京学芸大学附属高等学校教育目標

- 清純な気品の高い人間を育てる
- 大樹のように大きく伸びる自主的な人間を育てる
- 世界性の豊かな人間を育てる

### 4 育てたい生徒像

#### 多様な分野でイノベーションを引き起こし、国際社会に貢献する人間

##### ① 生涯学習者としての学習に向かう姿勢

生涯にわたり、知的好奇心と学習していく意欲を持ち、自ら学習する「方法」を身につけるとともに、学習によって獲得した力を他者のために活用する意欲に溢れ、挫折をも糧として成長していくタフな人間を育成する。

##### ② 適切な情報収集・分析能力と課題発見能力

情報処理に関する基礎的な・基本的な知識技能を持つとともに、情報を扱うことに対する適切な倫理観を育成する。さらに、錯綜した複雑な情報の中から重要なものを選び出し自らの目的に沿った課題を発見する力を育成する。

##### ③ 柔軟にダイバーシティを受け入れ活用する力

アジアをはじめとした海外の研究機関・大学・高校と連携して、共同研究及び交流を行うことで、グローバル化に対応した、異なった文化・価値観を持つ人々と協働しその多様性を生かしていく柔軟な知性を育成する。そのための英語力をはじめとした豊かなコミュニケーション能力を育てる。

### 5 中期経営目標（以下、令和2年を達成年度とする）

- 校長のガバナンスを強化し、迅速かつ適切な判断と実行を可能とする学校組織を構築する。
- 新学習指導要領と高大接続改革の目指す方向に沿った、現代的で充実した教科指導を実現する。
- 塾等に頼らず、現役で生徒の志望校合格を実現する進路体制を構築する。
- 「いじめ」をはじめとした問題行動を根絶する。
- イノベーターとなる人材を育成する教育について全国の高校等に発信する。
- 地震や新たな感染症等の災害に対する危機管理体制を充実させる。

### 6 年度経営目標

今年度の学校評価を昨年度と比べると、生徒の評価は概ね向上し、特に進路指導と情報の提供、災害から身を守る、不審者対応、ホームページ等による広報活動などの評価が10%以上向上した。一方保護者の評価は、ホームページ等による広報は10%程度向上している。保護者の自由記述では、進路指導強化への要望があった。評価の結果も踏まえ、今年度の重点目標は、「本物教育（本物を教材に本物の学力を育てる）」の深化と、進路支援の充実と、広報活動の活性化の3点とした。さらに、現下の新型コロナウイルス感染症への対応は言うまでもなく

最重要課題である。国内外の危機の時代にあつて、「本物教育」の深化により国際社会に貢献する人材、危機に対応できる人材の育成が急務である。また、昨年度の進学実績を踏まえ、進路支援を大胆に改善することにより、塾等に頼らずとも生徒の希望する進路を実現させるシステムを実現する。さらに、本校の教育の実態を広く公開し、本校を目指す中学生とその保護者に対して十分な情報を提供する。

下の記述で◎は特に重点的に行うことである。

#### (1) 学校運営の目標

「新型コロナウイルス感染症対応」、「広報活動の活性化」、「働き方改革の視点での業務改善」のために以下の取

り組みを行う。

- ◎ 感染症対応での休業期間中の自宅学習によりしっかりした学力を育てるため、ICT やネット環境を十二分に活用した「授業」を工夫する。
- ◎ 休業期間中の生徒の心身の健康状況の把握と相談体制を確立し、生徒にとって無理のない学校再開を目指す。
- ◎ 新しいホームページを生かし、各種情報を迅速に伝える。校長ブログは月に1回以上更新し、本校の進んでいく方向を明確に示す。各種行事や部活の状況、進学実績等は、即時掲載し、平均して週に2回以上更新する。
- ◎ 在校生の保護者向け授業公開を1週間、その他中学生とその保護者等への授業公開を土日等を含め2日間行う。本校での学校説明会、塾等に赴いての学校説明会など年に20回以上行う。
- 緊急事態宣言下で対面での会議を自粛した経験を活かす。企画会議や主任会を活用して調整を十分に行うとともに、会議目的の明確化とITの活用で進行を効率的に行う。その結果として、職員会議をはじめ諸会議の回数減少と時間短縮を図る。

#### (2) 教育活動の目標

「本物教育の深化と進路支援の充実」と「生活指導と安全教育」のために以下の取り組みを行う。

- ◎ 従来の本物教育を強化しキーコンピテンシーを意識した探究活動等により「課題発見能力」「思考力」「判断力」「表現力」を育成する。特に東京学芸大学からの支援を活用し、専門性の高い探究活動を目指す。
- 新学習指導要領と高大接続改革に沿ったカリキュラムを開発する。
- ◎ 外部模試を実力試験の中心に据え、徹底的に活用する。他校比較、他学年との比較、同一学年の継時変化等を分析し、有効な教科指導と進路指導を探る。1学年では入学時の学力を客観的に把握し、個に応じた学習指導を行う。2学年では、1学年からの経時変化を明確にして中弛みを防ぐ。3学年では新たな大学入学共通テストに対応した指導を充実させる。
- ◎ 教員の進路指導研修を各学期で1回以上行い、生徒への進路支援力を強化する。その結果、外部模試の返却時の生徒への指導を充実させる。
- ◎ 年2回の医学部ガイダンスに続き、同窓会と連携し他の職業に関するキャリア教育、外国の大学進学のためのガイダンス等も行う。
- ◎ 3年目となる大学個別試験対応の講習の開講数を増加するとともに、全教科で生徒ごとの過去問添削指導を充実させる。
- ◎ いじめの匿名通報システム、年2回の記名でのアンケート、スクールカウンセラーによるアンケートとカウンセリング、毎週行ういじめ防止委員会と支援委員会、管理職とスクールカウンセラー、養護教員とのミーティング等により、いじめを未然に防ぎ、重大化を阻止する。
- ◎ 附属中学校等との連携を強化し、メンタルなトラブルや学校不適應に対応する。
- 警察官や情報産業関係者による講演と教科情報の授業を通じて、生徒の情報対応力を強化する。
- ◎ 災害等を想定した避難訓練を年3回以上行う。
- ◎ 不審者対応を想定した教員対象の実地訓練を地域の警察の協力で行う。
- 図書館においては、生徒の意見を聞き、広報活動を強化することで貸し出し数を1.2倍にする。

#### (3) 研究活動の目標

- ◎ 理数融合の授業と工学的発想での理科授業を研究する。
- 海外の学校等との交流により、生徒に、コミュニケーション能力とダイバーシティを活用する能力とを育てる。
- ◎ 本校での発表会参加者等に事後調査をして、本校の研究成果の活用状況を分析する。
- ◎ 東京学芸大学等との連携で、生徒の探究活動へのメンターを確保し、研究を充実させる。

#### (4) 学生の教育・支援活動の目標

「大学、附属中学との連携」のために、以下の取り組みを行う。

- ◎ 学芸大学および他大学の教育実習生約200名に充実した教育実習を施す。
- コーディネーターを設置し、大学教員および学生と共同研究を推進する。

- 校長をはじめ本校教員が学芸大学に赴き講義を行う。
  - ◎ 学芸大学の教育インキュベーションセンターと連携し企業等と生徒の研究を結び付けて充実させる。
- (5) 社会貢献活動の目標
- 地域の防災活動に生徒の代表等が参加して、交流するとともに地域を愛する心を育てる。
  - 特別支援学校等との交流によりインクルーシブ教育を実践する。
  - ◎ 生徒有志が東日本大震災の被害地域を訪ね、自分たちでできるボランティア活動について考える。